

【中国】

第一四半期航空業の動向

蔣 垂東 文教大学文学部教授

1. 航空関係

1.1 第一四半期の航空旅客需要、高い伸び率を維持

中国民用航空局(CAAA)が5月20日に発表した今年1~3月期の航空統計によると、今年第一四半期の民間航空事業が順調に推移している。

表1 2019年1-3月中国民間航空需要統計

			項目	実績	前年同期対比
全体	総輸送量(億トキロ)			309.3	8.3%
	内	国内線	全体	201.6	9.8%
			地域路線	4.5	9.9%
	訳	国際線		107.7	7.1%
旅客	輸送量(万人)			16,074.3	9.8%
	内	国内線	全体	14,264.6	9.0%
			地域路線	303.4	13.8%
	訳	国際線		1,809.5	16.7%
客	輸送人キロ(億人キロ)			2,862.3	10.9%
	内	国内線	全体	2,098.9	10.0%
			地域路線	43.9	13.0%
	訳	国際線		763.4	13.2%
貨物	輸送量(万トキ)			167.1	▲1.9%
	内	国内線	全体	113.9	▲2.8%
			地域路線	5.3	▲4.8%
	訳	国際線		54.0	0.0%
物	輸送トキロ(億トキロ)			58.6	▲0.9%
	内	国内線	全体	17.6	▲1.6%
			地域路線	0.7	▲4.2%
	訳	国際線		41.1	▲0.6%
L/F	定期便座席稼働率			83.7%	0.3p
	定期便貨物積載率			71.2%	▲0.6p

*地域路線=香港・マカオ・台湾線/**貨物には郵便物を含む

表1では、航空輸送規模を示すトンキロベースの総輸送量は、貨物総輸送量が前年割れとなったため、伸び率がこれまでの二桁から一桁台に縮小した。旅客・貨物別では、航空旅客需要は引き続き二桁の高い伸び率で拡大し続け、路線別では国際線の伸び率が国内線を大幅に上回り、座席稼働率も前年同期を0.3ポイント上回る水準で推移した。一方、航空貨物需要は経済成長の鈍化を反映して、伸び率が小幅ながら前年同期を下回った。これまで比較的高い伸び率を維持してきた国際線の貨物輸送量は中米貿易摩擦の影響で、横ばいの状態で足踏みをし、ロードファクターも前年同期を0.6ポイント下回った。

地域別では、旺盛な旅客需要を反映して、全地域で前年同期を宇和舞ったのに対し、貨物では、主要輸出基地である東部地区が前年同期を下回った。表2は今年第一四半期、東部、中部、西部、東北部全国四大地域別の空港の旅客と貨物の取扱実績及び航空便発着回数の統計である。

表2 2019年1-3月期地域別空港取扱実績統計

	旅客取扱量		貨物取扱量		発着回数	
	実績 万人	対比 %	実績 万トキ	対比 %	実績 万回	対比 %
全体	32,930.3	8.3	376.1	▲2.4	275.2	6.7
東部	17,617.5	7.5	278.0	▲3.6	129.7	6.0
中部	3,758.0	12.3	25.6	3.9	40.4	10.3
西部	9,514.5	8.7	58.9	▲0.2	87.9	6.5
東北	2,040.3	6.6	13.6	2.8	17.2	5.8

出典：2019/05/20 中国民用航空局 HP

<http://www.caac.gov.cn/XXGK/XXGK/TJSJ/201905/P020190520390751247025.pdf>

1.2 2018年航空主要三社の収支決算、増収減益

中国航空企業ビッグスリーである中国国際航空(CA)、中国

東方航空(MU)、中国南方航空(CZ)の2018年1~12月期の収支決算報告が出揃った。表3が示すように、本業収入規模が最も大きいのはCZで、伸び率が最も高いのはMUだった。株主に帰属すべき純利益(利益1)の伸び率ではCAが1.3%と微増したが、MUとCZ表1が大幅に減少した。また、株主に帰属すべき非経常収益を引いた純利益(利益2)の伸び率では三社ともマイナスとなった。全体的に見て、2018年の収支は三社とも増収減益だった。

表3 2018年1-12月CA/MU/CZ三社の収支決算

項目	CA		MU		CZ	
	実績 億元	対比 %	実績 億元	対比 %	実績 億元	対比 %
収入	1,333.7	12.8	1,097.9	13.5	1,411.6	12.8
旅客	1,204.3	12.8	1,039.6	14.5	1,280.4	13.5
貨物	114.1	11.2	36.3	0.2	100.3	10.4
その他	33.9	—	51.4	—	24.7	—
利益1	73.4	1.3	27.1	▲57.4	29.8	▲49.6
利益2	66.2	▲8.4	19.3	▲57.0	23.4	▲55.1

*1元=約18円

三社の売上が揃って二桁伸びたのは、三社とも輸送実績と供給力が大きく増えたためである。表4は、2018年三社の座席稼働率、座席供給数(ASK)、旅客収入(RPK)、機材保有数を示している。座席稼働率(L/F)では三社も80%台の水準を維持し、CZはASK、RPK、機材保有数の3項目で、規模と伸び率で他の2社を大きくリードしている。

表4 2018年1-12月CA/MU/CZ三社の輸送状況

項目	CA		MU		CZ	
	実績	対比%	実績	対比%	実績	対比%
旅客	10,973	8.0	12,120	9.4	13,988	10.8
L/F	80.6%	▲0.5p	82.3%	1.2p	82.4%	0.2p
ASK*	2,736.0	10.4	2,448.4	8.3	3,144.2	12.0
RPK	2,205.3	9.7	2,014.7	10.0	2,591.4	12.4
機材	684機	4.4	692機	8.6	840機	11.4

*旅客数=万人、ASK、RPK=億

三社とも総コストの三割以上を占める燃油コストは、燃油価格が約25%上昇したため大きく膨らみ、上記供給力の増大に伴う燃油使用量の増加も結果として燃油コストを拡大させ、利益を減らした最大の要因となった。また、対米ドルの人民

元安による為替損益も三社の利益を大きく圧迫した要因の一つである。例えば、CAの為替収入は、2017年は29.38億元の黒字だったが、2018年は一転して23.77億元の赤字となった。表5はCA/MU/CZ三社の2018年の燃油コストを示したものである。

表5 2018年1-12月CA/MU/CZ三社の燃油コスト

	金額(億元)	前年対比	総コストに占める比率
CA	384.8	35.5%	33.4%
MU	336.8	34.0%	32.9%
CZ	429.2	34.6%	33.4%

*1元=約18円

なお、ガソリンとディーゼルの消費税率が今年3月31日より16%から13%に引き下げられることから、2019年の三社の収益が大きく改善されるものと見られている。

出典：2019/04/28 民航資源網

<http://news.carnoc.com/list/491/491757.html>

1.3 中国民航2019'夏秋ダイヤ、160路線新規開設へ

3月31日から10月26日にかけて実施される中国民航の2019'夏秋ダイヤが確定した。期間中、国内外約200社のキャリアが159の新規路線を開設して、旅客便と貨物便を空合わせて週間延べ96,997便を運航する。週間便数は2018'夏秋ダイヤより8.9%多い。表6が示すように、国内線は73,420便で、地域線の内、香港線は中国大陸の44都市との間で週1,927便、マカオ線は中国大陸の27都市との間で週682便、台湾線は台湾の4地点と中国大陸の54都市との間で週1,388便運航される。

表6 2019'夏秋ダイヤの国内線・地域線の週間便数

路線		2019'夏秋	2018'夏秋	対比
国内線		73,420	67,263	9.2%
内 訳	旅客便	71,772	65,906	8.9%
	貨物便	1,648	1,357	21.4%
地域線		3,997	3,776	5.9%
内 訳	香港線	1,927	1,916	0.6%
	マカオ線	682	466	46.4%
	台湾線	1,388	1,394	▲0.4%

国際線では、表7の通り、国内の37社が週19,580便、国外の133社が60カ国134地点から中国へ週8,416便を運航

する。

表7 2019' 夏秋ダイヤの国際線週間便数

		2019'夏秋	2018'夏秋	対比
総便数		19,580	17,992	8.8%
中国 企業	旅客便	11,027	9,340	18.1%
	貨物便	888	838	6.0%
	計	11,164	10,178	9.7%
外国 企業	旅客便	7,248	6,680	8.5%
	貨物便	1,168	1,134	3.0%
	計	8,416	7,814	7.7%

期間中、中国キャリアは旅客便 92 路線、貨物便 10 路線を含む 102 の新路線、外国キャリアは旅客便 55 路線、貨物便 2 路線を含む 57 路線を新規に開設する。中国キャリアが開設する新路線は東アジア、東南アジア、欧州、北米に集中しているのに対し、外国キャリアが開設する新路線は東南アジアとロシア線に集中している。

中国民間航空事業は中国経済の高度成長に伴って、特に航空旅客数は急速に拡大している。2011 年から 2017 年の路線数の推移は表 8、旅客と貨物輸送実績の推移は表 9 の通りである。

表8 2011～2017 年中国航空路線の推移

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
総数	2,200	2,457	2,876	3,142	3,326	3,794	4,418
国内	1,847	2,078	2,449	2,552	2,666	3,055	3,615
地域*	—	99	107	114	109	109	96
国際	443	381	427	490	660	739	803

*香港線&マカオ線

表9 2011～2017 年中国航空貨客輸送量の推移

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
旅客	29,317	31,936	35,397	39,195	43,618	48,796	55,156
	9.5%	8.9%	10.8%	10.7%	11.3%	11.9%	13.0%
貨物	557	545	561	594	629	668	706
	▲1.1%	▲2.2%	2.9%	5.9%	5.9%	6.2%	5.7%

出典：2019/03/29 民航資源網

http://www.caac.gov.cn/XWZX/MHYW/201903/t20190329_195430.html#

国家統計局 HP

<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>

2. 総合運輸統計

2.1 2019 年第一四半期の方式別輸送統計、発表へ

国家統計局はこのほど、同局の公式サイトにて 2019 年 1～3 月第一四半期の全国の鉄道、道路、水路、航空方式別旅客・貨物の年間輸送実績統計および港湾貨物と対外貿易貨物取扱実績の統計を発表した。詳細は表 10 の通り。

全体として、成長を維持しているものの、米中経済摩擦などによる経済の減速を反映して、トンベースの貨物輸送量の伸び率は、総輸送量では前年同期の 6.3%より 6.1%、鉄道は、7.7%から 3.0%、道路 7.4%から 6.9%、水路は 6.5%から 6.3%に下がり、航空に至っては 8.3%からマイナス 1.9%へ大幅に下落した。

表10 2019 年 1～3 月方式別輸送実績統計

項目		実績	対比
貨物総輸送量		1,084,724 万トン	6.1%
内 訳	鉄 道	101,277 万トン	3.0%
	道 路	819,428 万トン	6.9%
	水 路	163,851 万トン	6.3%
	航 空	168 万トン	▲1.9%
貨物総輸送トンキロ		45,310.43 億 ^ト キ ^ロ	5.4%
内 訳	鉄 道	7,041.77 億 ^ト キ ^ロ	1.9%
	道 路	14,894.16 億 ^ト キ ^ロ	6.6%
	水 路	23,315.85 億 ^ト キ ^ロ	6.2%
	航 空	58.65 億 ^ト キ ^ロ	▲0.9%
旅客総輸送量		443,574 万人	▲2.1%
内 訳	鉄 道	85,314 万人	9.0%
	道 路*	336,301 万人	▲5.0%
	水 路	5,885 万人	▲1.8%
	航 空	16,074 万人	9.8%
旅客総輸送人キロ		8,869.43 億人 ^キ ロ	3.7%
内 訳	鉄 道	3,684.87 億人 ^キ ロ	4.8%
	道 路*	2,305.38 億人 ^キ ロ	▲5.5%
	水 路	16.87 億人 ^キ ロ	5.1%
	航 空	2,862.31 億人 ^キ ロ	10.9%
全国港湾貨物取扱量		315,283 万トン	4.3%
内、対外貿易貨物取扱量		103,832 万トン	3.1%
沿海港湾貨物取扱量		15,960 万トン	3.2%

*事業者による輸送量

旅客輸送では、2013 年より、道路旅客輸送量の統計対象が道路事業者によるものに限定されるようになってから、人

ベースの総輸送量のマイナスが続いているが、2019年第一四半期のマイナス幅は前年同期の5.4%から2.1%に縮小した。表11は2013年以降統計方法変更後の道路、鉄道、水運、航空の輸送量の推移を示している。

表11 2013~2018年方式別旅客輸送量の推移

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
合計	212.3	203.2	194.3	190.0	184.9	179.2
道路	185.3	173.6	161.9	154.3	145.7	136.5
鉄道	21.1	23.0	25.4	28.1	30.8	33.7
水運	2.4	2.6	2.7	2.7	2.8	2.8
航空	3.5	3.9	4.4	4.9	5.5	6.1

単位=億人

方式では、高速鉄道の整備拡大に伴う利便性の向上を反映して、鉄道旅客輸送量の伸び率は7.3%より9%に高まった。鉄道と競合関係にある航空は旺盛な需要に支えられて、高い伸びを維持しているものの、2013年以来続いていた二桁の伸び率は9.8%に割り込み、短距離路線では利用者が航空から鉄道に流れたことを示している。一方、自家用車の普及と高速鉄道の発展の影響により減少傾向が続く道路旅客輸送量のマイナス幅は前年同期の8.5%から5.5%に縮小した。

出典 2019/04/25 国家統計局

<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=A01>

<http://data.stats.gov.cn/easyquery.htm?cn=C01>